



三友会だより

第88号

令和元年10月21日発行

宮崎市神宮西1-49-1

TEL: (0985)32-2234

<http://www.sanyu-kai.or.jp/>

発行者 石川 智信

はとぼっぼの歌

石川 智信

今年の7月12、13の両日、宮崎市で全国デイケア研究大会が行われた。私が大会長となり、当院のデイケア主任の野崎君が実行委員長として1年前から準備を行ってきた。その結果、全国から約600名の方々が会場の宮崎観光ホテルに参集された。そして大会の冒頭に行った会頭講演で、リハビリを実践することで第2の人生を前向きに生きることができる実例として、妻の取り組みを参加者の皆様に披露させていただいた

11年前にクモ膜下出血で倒れた妻は第2診察室に戻ることを夢見て、右半身麻痺と失語症に対する連日のリハビリを続けてきた。残念ながら医師としての復帰は叶わなかったが、その懸命な姿は私のみならず多くの患者さん達を勇気づけてくれた。私自身、当事者の家族という立場になって初めて見えたものがあった。リハビリは希望を紡ぐためにあるということだ。会場の入り口にリハビリの一環として始めた絵を6点ほど展示して、参加者の皆様に対する歓迎の意を表した。そして私の会頭講演の後、まず懸命に練習した挨拶文をたどたどしくではあったが読み上げた。それから言葉を取り戻すために始めた歌曲を歌い、体幹バランスを改善するために取り組んだ日本舞踊を舞わせていただいた。それぞれ拙いものではあったが、終わった後に多くの参加者から、「今回の研究大会に参加してよかった、これがリハビリテーションの原点だと気づかされた、思わず感動で涙が溢れ出た」などと声をかけていただいた。私たち夫婦にとってこれほどありがたい言葉はなかった。

長い入院生活から自宅に戻り、これからのリハビリに期待と不安を抱きながら日常生活を再開した頃を思い出すと、今でも目頭が熱くなる。どうしたら言葉を取り戻してコミュニケーションができるようになるだろうかと試行錯誤を繰り返していた。そんなある日、麻痺している右手を支えながら近所を散歩していた時であった。かける言葉が見つからず、いささか気まずい雰囲気が漂っていた。公園の鳩を見てとっさに、「ぼっぼっぼ、はとぼっぼ、豆が欲しいかそらやるぞー」と口ずさむと、妻が後を追うように「ぼっぼっぼ」と歌いだした。それも流暢にである。思わず奇跡が起きたのかと思った。しかし実際には奇跡ではなく、小さい時にメロディーと一緒に覚えた言葉は、左の脳半球にある言語中枢以外の引き出しにしまわれていたのである。おそらく右脳であろう。それでもあの時の感動は今でも忘れない。とにかく流暢に出てくる言葉を聞きたくて、何度も何度も散歩中に繰り返した。

あれから10年以上が経過した。諦めることのないリハビリは今日も続いている。しかし一方であきらめざるを得ない現実もまた、日々背中で重みを増してきている。私たちは年を取っていく。残された時間を考えてしまいそうになる時には、はとぼっぼの歌を歌ったあの時を思い出して元気を出そうと思う。





全国デイ・ケア研究大会 2019 in 宮崎

～実行委員長を経験して～

通所リハビリテーション

主任 野崎 隆司

暑さも少しずつ和らいできていますが、子供たちの元気な声は朝昼問わず蝉の声の様に響き渡り、ビニールプールもまだまだ片づけられそうにありません。

7月12日～13日に全国デイ・ケア大会が宮崎観光ホテルで開催され、気付けば大会終了から3カ月が経過しました。つい昨日の様に記憶が蘇ります。思い起こせば、大会の1年以上前から準備を始め、宮崎県内の各施設の代表の方を運営委員として、いしかわ内科に夕方から集まり、熱い思いを語り合い会議が終わるのは21時を過ぎていました。

大会では実行委員長という立場を任せられましたが、私の力不足もあり、運営委員の皆様には本当にご迷惑をお掛けしたと思います。時間をかけて何度も話し合ったのにも関わらず、ギリギリまで準備に時間がかかりました。不安一杯で開会宣言を行いました。緊張してしまい一番大切な「開会を宣言します!」と宣言をするのを忘れてしまいました。会場の皆さんが気拔けした様子を今でも忘れられません。しかし、その後は緊張もほぐれ、大会期間中はあっと言う間に時間が経過し気付いたら閉会宣言を行っている自分がいました。もちろん閉会宣言は何度も練習したので大丈夫でした。

当初は実行委員長としての立場から、私が大会の為に役に立てるのか? すごく心配でしたが、大会準備から大会終了まで辺りを見渡せば、いつも輝きながら責任を全うしている実行委員、職場の仕事を休んでまで2日間大会運営に参加してくれた運営委員の皆様、気付けば私の周りには顔見知りの沢山の仲間が来ており、大会を通じて通所系サービスにおける縦の繋がりと、横の繋がりができ強固な信頼関係、チームプレイが出来たのではないかと思います。今後もこの繋がりを大切に、定期的に Face to Face の関係性を継続していきたいと思います。最後になりますが、私を支えてくれた院長先生を始め当院のスタッフ、「頑張れ」と何度も声をかけてくれた利用者の方々に感謝を申し上げたいと思います。

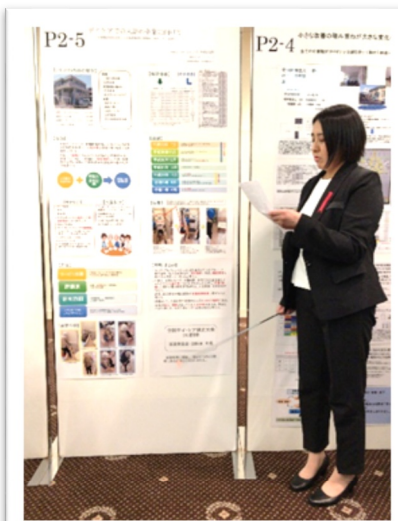
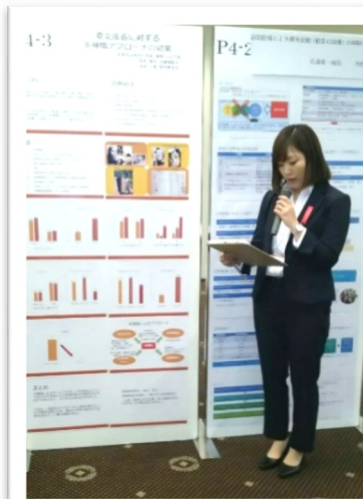
1年間私を支えて頂き、私を成長させて頂きありがとうございました。



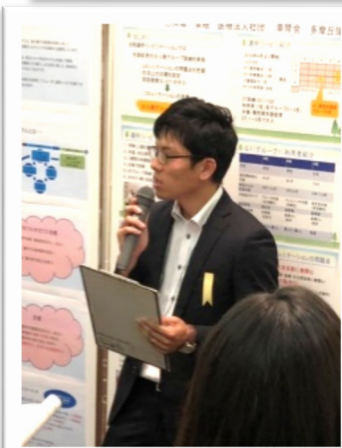
全国デイ・ケア大会 2019 in 宮崎の記録



『希望を紡ぐリハビリテーション』
というテーマで大会長講演を行い、万
佐子先生も日本舞踊を披露しました。
講演や舞踊をご覧いただいた皆様から
たくさん称賛の声を頂きました。



当法人のデイケア・
万智・佐智から4名
の職員が発表しま
した！



懇親会では宮崎伝統の“夜神楽”と
“ひょっとこ”を披露して頂きました。
全国から参加された方々に、宮崎ならではの
おもてなしをさせて頂きました。

家族の気持ちと介護福祉士の私

健幸くらぶ万智 介護福祉士 富永 真代

私の大好きなおばあちゃん。えくぼが可愛くて、料理上手で、なんでもできるとっても優しいおばあちゃん。子供の頃からお花、着付け、料理、洗濯物の畳み方、なんでも教えてくれた。

そんな私のおばあちゃんは、40代で関節リウマチになった。おばあちゃんは辛い日もいつも笑顔で家事をこなしており、その変形していく手足を見ているうちに、私は、将来の為に家族の力になればと介護福祉士になった。そして、社会人になってから一人暮らしではなく、おばあちゃんの自宅に住みながら有料老人ホームに勤めた。次第におばあちゃんは大好きな料理をするのも困難になってきて、夜間のトイレも起き上がるのが困難になり、仕事の私を起こしたくないのか「そお〜」っと、起きようとするが起き上がれず「ドーン」っと、倒れる音で目覚める毎日が始まった。仕事が終わるおばあちゃんの家に帰ると、居るはずの時間にいない。近所を探すと、買い物に行った帰りに体がきつく、休憩をしながら帰っていたようだった。自分の出来ないことが増える毎日に私の顔を見ては涙を流し、そんな日は、眠れないのかベッドに横になっても目を開けていた。そんな横顔をみると、私は電気をつけ「よし！コンビニに行くよ！！」っと、深夜0時でもパジャマ姿のまま、フラフラするおばあちゃんの腕を持ち、おばあちゃんの大好きな三ツ矢サイダーと、クリームパン又はじゃりパンを買いに行っては、2人で「こんな時間にパジャマのまま〜まあた、甘い物〜」っと、笑うのだ。

しかし、ずっとそばに居たいけど、ついにおばあちゃんの自宅から出て行かないといけない日がやってきた。私の結婚だ。とても喜んでくれたけど、寂しい気持ちも強く一人暮らしが不安。でも、自分の住み慣れた自宅で生活したい。私も悩んだ結果、体調の悪い日や週末には家族皆で順番に泊まったりしていた。そして、おばあちゃんちの近くで働こう！そう決め、いしかわ内科に入社した。仕事帰りに顔を出しには行っていたが、徐々に一人での生活が困難になり、連絡が来て行くと、自宅の床に血痕が…。転倒して7時間経過しており、這いつくばってやっと電話にたどり着いたとのことだった。それ以外の日にも、調子がいいからと皆の大好きな煮物を作り、火にかけている間に掃除をしていたらバランスを崩し転倒…。身動きが取れない…。首に下げておくように約束していた携帯は、寝室に…。煮物の汁は無くなり、次第に煙が上がり、私が仕事帰りに駆け付けた時には、家の外にまで響き渡る火災報知機の音。玄関の鍵を開けると、勢いよく煙がでてくる下に泣きながら座り込んでいるおばあちゃんが…。鍋は真っ黒で、ジャガイモは炭になっていたが、幸い炎はでていなかった…。

本人が望む事はなるべくさせてあげたい。でも、怪我をさせるのを恐れ過剰に介助してしまう日もあった。でも、出来る事は時間をかけてでも自分でしてもらわなければならない。本人はキツイと言うが、家族は長生きをして欲しい。いつもキツイ言葉を言ってしまうとは後悔をしていた。あれから3年…。勤労感謝の日、家族全員揃った夜に病室で静かに息をひきとった…。



福祉用具について考える

祇園デイサービスセンター
介護福祉士 中河 真穂

夏に比べると随分と日が短くなり、ますます秋の深まりを感じているこの頃となりました。いきなりですが、皆さんは 10 月 1 日が何の日かご存じの方はいらっしゃいますでしょうか？

正解は「福祉用具の日」です。私も調べるまではよくわからなかったのですが、平成 14 年に日本福祉用具共有協会が制定した日であり、福祉用具の普及に向け、啓発活動等を全国一斉に行っている記念日なのだそうです。ちなみに「福祉用具の日」を、10 月 1 日としたのは、平成 5 年同日に福祉用具法の施行日にちなんだ為です。

福祉用具法とは、高齢者及び障がい者の自立の促進、介護者の負担軽減を図るため、福祉用具の普及・開発の促進を目的とした法律です。 私たちが日々生活している中で、高齢者や障がい者の日常生活や社会参加を営む一環として、福祉用具はとても大切なものです。しかし一般的には、また馴染みがないのも現状で、必要な状態になっても、その存在を知らなかったり、知っていたとしても周囲を気にして使う事をためらう場合が多いのではないのでしょうか。高齢化が進む中、福祉用具を誰もが必要とするときに、利用しやすい環境を作っていくことが求められていることから 10 月 1 日は「福祉用具の日」に制定されました。

介護用ベッドや車椅子をはじめとした福祉用具は、加齢や疾病等によって低下したご利用者様の身体機能を補うとともに、自分で出来ることを増やし自信や意欲を引き出す効果も期待できます。また、より安全な生活環境を作り、介護する側の腰痛や疲労などの身体的な負担を少しでも軽減するように工夫されています。現状での課題を、福祉用具を活用して改善を目指して頑張っていきましょう。

ご利用者様の生活範囲を広げ、より自立したその人らしい生活の実現をサポートできるように、私達介護者も福祉用具について、もっと勉強していきたいと思えます。



福祉用具についての最寄りの相談窓口



祇園デイサービスセンター	83 - 2212
いしかわ内科 デイケア	32 - 2234
健幸くらぶ万智	89 - 3800
人の話くらぶ佐智	89 - 2772

新人紹介



前田 明美（まえだ あけみ）

いしかわ内科 外来看護師

令和元年 8 月 19 日に入職しました。仕事を離れていた期間が長く不安や戸惑いも多々ありますが、周りのスタッフに支えられて勤務させていただいています。笑顔を忘れずに頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



山本 ゆきえ（やまもと ゆきえ）

いしかわ内科 デイケア 介護職

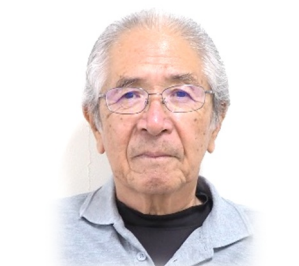
10月からデイケアに入りました山本と申します。皆様が安心して楽しく過ごせるよう頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



白井 哲之（しらい てつゆき）

祇園デイサービスセンター 運転手

利用者様に不安を感じさせることなく、安全運転で送迎します。



田上 義雅（たがみ よしお）

健幸くらぶ万智 運転手

7月末より昼間に勤務し送迎担当の田上(タガミ)でございます。丁寧な送迎に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



樋口 由紀（ひぐち ゆき）

健幸くらぶ万智 介護職

このたび「健幸くらぶ万智」へ着任いたしました介護士の樋口と申します。皆さまのお役に立てるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。